

ノ赤紫色ノ色ガ、花冠ノ列片ニ放射狀ニ延ビ、花ヲ上方カラ見ルト、海軍ノ將官旗ノ様ニ見エルノデアツタガ、残念ナガラ、腊葉ニシトラ少シモ普通ノモノト區別ガ出来ナクナツタ。兎ニ角美シイ一品デアル。

〇いぶきだいこん

伊吹山下ナル、對山館主人ノ好意ニヨリ、小形ノ大根ヲ味フヲ得タ、之即チ故伊藤圭介博士編文部省發行(1872)日本產物志、近江、上、所載ノモノデ同州、上野ノ名產トシテ古來相當ニ有名ナモノデアル。依テ日本產物志所載ノ圖ヲ茲ニ轉寫スル。本品ハ根尖ニ長キ細根ヲ生ズルニヨリ、一名ねづみだいこんトモ云フ。マタ、日本產物志ノ記事ヲ下ニ掲ゲテオク。

「江州伊吹山ノ麓、上野村ノ名產ナリ根短ク末ニ至リ豐肥ニシテソノ端ニ細キ根アリ形鼠尾ニ似タリ味甚ダ辛シ麵具ニ宜シ煮熟スレバ甘シ七月頃専ラ食用トナス多ク西京ヘモ輸出ス」

尙細根部ヲ含マザル根ノ長サハ 16 cm. 太サ 5 cm. 内外デアル。

雜 錄 Miscellaneous

蓬萊島ニ地衣ヲ探ネテ (其一)

佐 藤 正 己

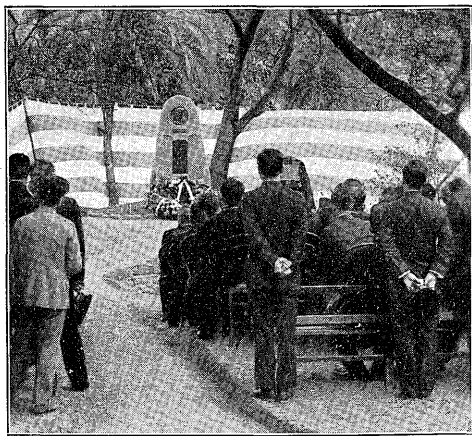
秦ノ始皇帝ガ不老不死ノ靈藥ヲ求メサセタト云フ我が蓬萊島ハ同時ニ地衣類ノ寶庫デモアル。朝比奈博士ノ數回ノ採集行デ集メラレタ標本ヲ主トシ、ソレニ FAURIE・緒方正資・佐々木舜一等ノ諸氏ノ採集品ヲ加ヘテ合計 260 種ノ地衣ガ現在マデ知ラレテキルガ、地衣學的ニ踏査サレタ地域ハマダマダ臺灣ノゴク一小部分ニ過ギナイカラ今後ノ研究調査ニヨツテドノ位フエルカー寸見當ガツカナイ。シカモ、タダ種類ガ多イト云フダケデナク、ソノ種類ガ臺灣特有ノモノトカ、支那及ビ熱帶地方ニ共通ナモノデ日本本土デハ見ラレナイモノナドガアルノデ頗ル注目ニ値スル地域デアル。近來主トシテ北日本ノ地衣類ヲ研究シテキル筆者ハ、目下白麿跳梁シ積雪數尺ノ下ニ埋モレタ東北ノ山々ニ別レテ告ゲテ正月ノ松飾リガトレルヤ否ヤ東京ヲ飛出シテ待望ノ臺灣ヘノ採集旅行ヲ決行シタ。貴重ナ本誌ノ一部ヲ借リテソノ概略ヲ報告スルコトニシタイ。

參考マデニ今回ノ採集旅行ノ日程ヲ簡單ニ示スト次ノヨウニナル。

1月8日 正午神戸出帆ノ近海郵船大和丸ヲ臺灣ニ向フ。11日午後1時基隆ニ入港、汽車ヲ臺北ニ着ク。12-13日臺北市中ヲ見物シ博物館・植物園及ビ臺北帝大ノ諸設備ヲ見學。14日早朝臺北ヲ出發、臺中ノ東京帝大農學部附屬臺灣演習林ノ事務所ヲ採集上ノ打合せ。15日臺中カラ汽車ヲ林内驛マデ、ソレカラ自動車ト臺車ヲ溪頭ノ演習林保護所ニ到着。16-17日溪頭附近デ地衣類ヲ採集。18日早朝溪頭ヲ出發シ臺車ヲ林内ニ下リ、ソレカラ汽車ヲ屏東着。19日屏東カラ潮州マデ汽車、ソレカラ自動車ヲ南端鳶巒燈臺マデ行キ、臺南マデ引返ス。20日午前中安平港ト臺南市中ヲ見物、午後嘉義ニ行キ營林所ノ出張所ヲ採集上ノ便宜ヲ依頼。21日森林鐵道ヲ阿里山頂上ノ沼ノ平ニ着ク。22日沼ノ平カラ線路傳ヒニ兒玉山附近マデ採集。23日新高登山道ニ沿ツテ石山方面マデ採集。森林鐵道ヲ利用シテ沼ノ平ニ引返ス。24日森林鐵道ヲ眠月マデ乗車、徒歩ヲ鐵道傳ヒニ引返シナガラ採集。25日沼ノ平カラ原生林遊歩道路ヲ經テ二萬平ニ出テ鐵道傳ヒニ再ビ沼ノ平ニ戻ル。26日森林鐵道ヲ十字路マデ下リ附近ヲ採集。27日早朝十字路ヲ出發シ採集シナガラ哆囉嚨マデ下リ、森林鐵道ヲ嘉義ニ下ル。28日嘉義ヨリ汽車ヲ臺北ニ戻ル。29日-2月1日標本ノ乾燥整理・寫眞現像、知人訪問・買物等ニ過ス。2日草山・北投兩溫泉ヲ見物。3-4日臺北カラ烏來溫泉マデ往復シテ採集。5日午後4時半基隆出帆ノ大阪商船高千穂丸デ内地ニ向フ。9日午前7時神戸ニ入港。

四日間ノ船旅モ無事ニ濟ンデ基隆ニ入港シタ時ハ流石ニ嬉シカッタ。基隆マデ態々出迎ヘニ來ラレタ先輩ノ吉川氏ニ案内サレテ汽車ニ乗ツタガ、車窓カラノ風物ガスベテ物珍ラシク感ジラレテ話モ耳ニ入ラナイ程ニキヨロキヨロアタリヲ見廻シテバカリ居タ。ヤガテ臺北ニ着イタガ出迎ヘニ見エル筈ノ鈴木氏ハ見當ラナイノデサツサト豫メ交渉シテオイトモラッタ教育會館ニ行キ、先年朝比奈博士ノ一行ガ泊ラレタ室ノ隣室ニ旅装ヲ解イタ。

夕飯後應接間デ何氣ナシニタ刊ヲ手ニシタラ、社會面ニ故早田文藏博士ノ寫眞ガ大キク出テキル。ハテ何事ゾト讀ンデ見ルト先頃カラ臺灣博物學會ト山林會トガ主ニナツテ計畫中ノ早田博士紀念碑ガ目出度ク竣功シテ明日除幕式ガアルト云フ。記事ハ博士ノ生前ノ學歴殊ニ動的植物分類系ニツイテノ解説ニマデ及ビ、非常ニ多クノ紙面ヲ割イテ故人ヲ賞讃シテキテ、我々ノヨウニ先生カラ講義ヲシテイタマイタ者ニトツテハ非常ニ愉快ナ記事デアッタ。翌日ハ早速臺北帝大ニ行ツテ理農學部ノ植物分類生態學教室ノ方々ト早田先生ノ除幕式ニ出席サセテイタマク事ニシタ。式ハ植物園内ノ池畔デ開カレタガ先ヅ佐々木舜一

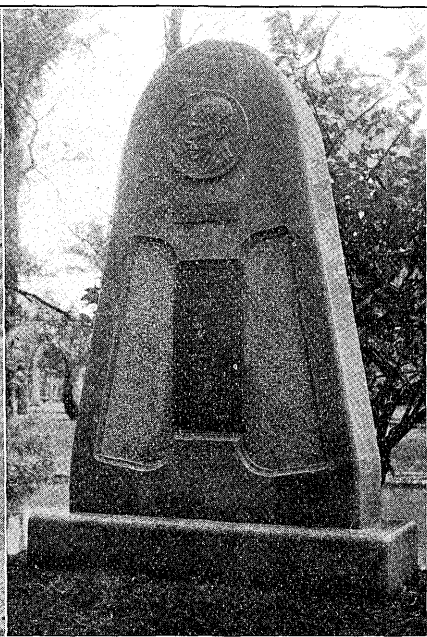


第1圖 早田文藏博士紀念碑除幕式ノ實況
(昭和十一年一月十三日臺北帝大ノ某氏撮影)

氏ノ愛ラシイオ嬢サンガ綱ヲ引キ、續イテ總督府ノオ 歴々ヤ山林會長ト博物學會長ノ式辭ガアリ、次イデ、山本由松助教ガ故人ノ業績ヲ詳細ニ紹介シタ式辭ヲ朗讀サレタ。各地カラ 寄セラレタ 祝電朗讀ヤ、遺族代理ノ挨拶ナドガアツテ除幕式ヲ了ヘタ。植物園事務室ノ一室ニハ 故人ヲ偲ブ寫眞・論文・新發見ノ植物標本ナドガ 陳列サレテ會談數刻ニ及ンダ。臺灣ノ各新聞ハソノ翌日モ早田先生ノ紀念碑除幕式ニ就イテ相當ノ紙面ヲ割イテキタ。ナホ山本由松助教ハ除幕式ノ次第並ビニ早田博士ノ業績ニツイテ臺灣博物學會報ニ執筆サレタトノコトデアツタカラ 本稿ガ印刷ニ附セラレル 頃ニハ既ニ出版サレテキルデアラウ。コノ紀念碑ハ 寫眞デモ分ルヨウニ一番上ニ丸ク先生ノ「プロフィール」ヲ浮彫シ、ソノ下ニ横ニ「早田文藏博士」トアリ、碑文ニハ下ノ様ニ書カレアル、「理學博士早田文藏君ハ明治七年新潟縣ニ生レ東京帝國大學理科學大學ニ植物學ヲ專攻ス。明治三十八年臺灣總督府ニ聘セラレ爾來十有九年本島植物ノ研究ニ從ヒ之ガ學的體系ヲ整ヘ產業界ニ貢獻スル所亦大ナリ。後母校ノ教授ニ轉ジ植物分類學ノ泰斗シテ 斯界ニ重キヲ爲ス。昭和九年一月病ヲ得テ東京ニ卒ス。享年六十一。昭和十年六月 臺灣博物學會 臺灣山林會」



第2圖 「フオリー」師紀念碑
(昭和十一年一月三十日筆者撮影)



第3圖 早田文藏博士紀念碑
(昭和十一年一月三十日筆者撮影)

早田博士ノ紀念碑ハ中央試驗所林業部ノ 腊葉館ノ前ニアル池ノ中ニ少シ突出シタ小サイ 岬ニ建テラレタル。腊葉館ハ煉瓦造ノ實用向ノ建物デ別ニ變ツタモノデハナイガ、ソノ隣ニアル修古館即チ林業部標本室ハ中々 由緒アル建物デアル。臺灣ガマダ 清國ノ領有デアツ

タ光緒十一年（1835）ニ時ノ巡撫劉明傳ガ本國大官ノ迎賓ノタメニ建テタモノデ、帝國領トナツテカラモ引續キ總督府廳舍トシテ襲用シタガ昭和七年市區改正ニ際シソノ一部ヲ園内ニ移シテ保存シタノガ即チコノ建物デアル。ソノ門扉ナドハ寫眞ニ示スヨウニ支那情緒タツブリナモノデアル。内部ハ左方カラ第一室（研究報告・植物調査）、第二室（土壤・氣象）、第三室（種子）、第四室（造林保護・林業器具）、第五室（木材）、第六室（森林經理）、第七室（木材工藝・副産物・特殊林産）、第八室（林産化學製品）、第九室（特殊林産參考品）ト區分サレ、臺灣特産ノ



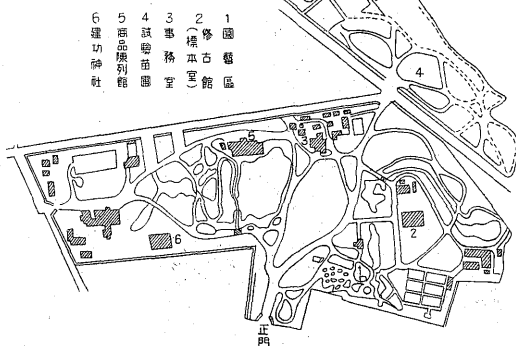
第4圖 臺灣總督府中央試驗所林業部標本室ノ外觀
(昭和十一年十一月十日筆者撮影)

樹木ノ腊葉ヤ有用材ノ標本、白蟻ノ害ヲ受ケタ木材ヤ防蟲劑ノ抵抗力ノ試験成績ナドガ我々素人ニモヨク分ルヤウニ示シテアル。コノ附近ニハ威風堂々タル大王ヤシ (*Oreodoxa regia*) ニゆすらやし (*Archontophoenix Alexandrae*)、果實ニ石鹼ヤ蠟燭ノ原料ニナル脂油ヲ澤山含ム油やし (*Elaeis guineensis*) ヤここやし (*Cocos nucifera*)、德利狀ノ愉快ナ恰好ヲシタとつくりやし (*Hyophorbe amaricaulis*) ソレニびらうヤタこのきノ類ガアツテ流石ハ熱帯近クノ植物園ダケアルトツクツク眺メ此處彼處デ後ノ紀念ニ寫眞ヲ撮ツタ。

早田博士ノ紀念碑カライクラモ隔タラナイ所ニ林業部ノ本館ガアルガソノ表玄関ノ植込ノ中ニ天主教ノ神父デ殆ンドソノ全生涯ヲ本邦ノ傳道ニ捧ゲ、カタハラ日本各地ノ高山幽谷ヲ跋涉シテ植物ヲ採集シ、晩年臺灣ニ旅行シ花蓮港州ノ奥地デ病ヲ得、遂ニ大稻埕ノ教會デ昇天シタ有名ナ Urbain FAURIE 師ノ銅像ガアル。コレコソ早田博士ノ紀念碑ト正ニ好一對ヲナスモノデアラウ。臺石ニハ日本文デ「植物採集家佛國宣教師フオーリー師紀念碑」トアリ、又佛文デ「A la mémoire de l'Abbé Urbain Faurie (1847-1915), l'inallassable collecteur de plantes, mort à la peine dans cette île,

部業林所究研央中府督總灣臺

圖全園物植



第5圖 臺灣總督府中央研究所林業部植物園全圖
(昭和十年十月發行ノ案内書ヨリ模寫、圖ハ正シク縦ニ南北ヲ指シ、下方ガ北。縮尺ハホム 1:5000)

la 4 juil. 1915.” ト刻マレテアル。

サテソモソモ臺灣ニヤツテ來タノハ我ガ専門ノ地衣類ヲ採集スルタメナノダカラ地衣類ノナイ都會ニ長居ハ無用ト急イデ旅装ヲト、ノヘテ臺北ヲ出發シタ。先ヅ最初ハ臺中ニ行ツテ東京帝大農學部附屬臺灣演習林ノ事務所デ採集ノ打合セヲシタ。既ニ東京ノ演習林本部カラモ通知ガ行ツテキタノデ話ハスラスラ進ンデ一人旅デモ別ニ大シタ心配ヲシナクテモヨイヨウニ仕度ガ出來タ。臺中ニ泊シテ翌朝ハ汽車デ林内ニ向ツタガ、今迄ハ急行列車バカリ利用シタノデ別ニ氣ニナル程汚イ人達モ乗ラナカツタガ、今度ハ普通列車ナノデ跣足ノマ、デ苦力然タル汚イ連中ガドヤドヤ乗込ム。「リュックサック」ニ登山靴ト云フ勇マシイ恰好ガ珍ラシイト見エテジロジロ眺メルノデ流石ニ鐵面皮ノ筆者モイササカタデタデノ態デアツタ。ペツペツト所カマハズ唾ヲハキ、油ヲシマセタ物凄イ臭ノ煙草ヲフカシ、びんらうじ (*Areca Catechu*) ノ果實ヲ嚙ンデマルデ生血ヲス、ツタヨウニ凄慘ナ赤イ唇ヲシタ手合トハドウモツキアヒニクイ。尤モコノ果實ヲ嚙ムコトハ衛生上中々ヨイコトデ、ソノ中ニ含マレテキル Arecolin (*Arecaidinmethylester*) ノ作用ニヨリコレヲ習慣的ニ用ヒル臺灣人及ビ南洋土人ニツイテ觀察スルト腸内寄生虫ガ少ク視力障害モ治癒スルコトガアルト云ヒ、又ソノ單寧ニヨツテ下痢モ少イト云フカラ衛生的嗜好品デアリ、實ニ檳榔子 (*Semen Arecae*) ト云フ名ヲモツ立派ナ生藥デアル。アレヤコレヤト物珍ラシク眺メテ居



第6圖 溪頭ノらんだいすぎ
(昭和十一年一月十八日筆者撮影)

ル中ニ汽車ハ林内驛ニ着イタ。驛ニハ内地人以上ニ立派ナ日本語ヲ話ス本島人ノ職員ガ迎ヘニ出テクレテスグ竹山ノ作業所マデ自動車デ案内シテクレタ。竹山カラ乗合自動車デ終點ノ車軌寮マデ行クト其處ニハ溪頭保護所ノ主任川原氏が臺車ヲ用意シテ待ツテ居ラレタ。マツソンナ具合デ次カラ次ヘト「リレー」式ニ渡サレテ無事一月十五日ノ夕方マデニ溪頭ニ着クコトガ出來タ。溪頭保護所ハ演習林内ノ此ノ方面デノ最前線デ、内地人ハ僅カニ數名デ他ハすべて本島人、蕃人コソキナイガホントニ臺灣ニ來タナト思ハセル土地デアル。構内ニハ事務室ト宿舍、ソレニ職員住宅ナドガアリ、へごやまるはち等ノ木生羊齒類ヤ臺灣特有ノたいわんすぎ (*Taiwania cryptomerioides* HAYATA), らんだいすぎ (*Cunninghamia Konishii* HAYATA) ナドノ巨木が見本的ニ植エテアツタ。又ソノ附近ニハ土ヲ盛ツテ演習林全體ノ模型ガ巧ミニ作ツテアル。此處ハ一昨年ニ朝比奈博士ノ一行ガ採集ニ來ラレテ十分ニ資料ヲ集メラレタ試験済ノ地デ、地衣ハ餘リ多クハナイト云ハレタ土地デアル。正

ニソノ通りデ、羊齒類ヤ苔蘚類ノ寶庫デハアルガソノ割合ニ地衣類ニハ惠マレテ居ナイヨウデアル。

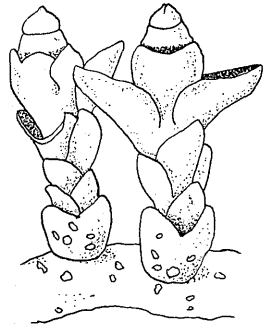
らんぷノ下デ山中ノ宿舍トシテハスバラシイ御馳走ノアルタ飯ヲ濟マセ、退屈凌ギニ備付ノ紀念帖ノ頁ヲ繰ツテ誰カ知ツタ人ノ書イタモノガナイカト捜シテキタラ、アツタ！アツタ！朝比奈博士一行ノ寄書ガアル。曰ク「昭和八年十二月二十三日地衣ヲ尋ネテ當所ニ來ル。此地元來規那樹栽培ニ適シ他日本島ニ此靈樹ノ蕃成スル日アラバ其搖籃ノ地ハ此處ヲ措イテ他ニ求メントスルモ得ベカラズ。當軒學人 朝比奈泰彦 奉祝皇太子殿下御降誕」トアリ更ニ續イテ「昭和八年十二月二十二日ヨリ二十五日マデ再ビ羊齒ヲ尋ネテ 緒方正資。右ト同ジ 頑爺學人藤川福二郎。パラサイト 朝比奈正二郎」トアツタ。當軒ノ號ハ既ニ本誌ノ愛讀者ニハオ分リノコトデアラウガ、ズット以前ハ雷軒デ後ニ當軒トナツタモノデ何レモ地衣ノ英名 Lichen ニ由來シタモノデアル。次ノ頑爺學人ト云フノハ「ガンジー」學人ト讀ムノデアツテソノ理由ハ知ル人ゾ知ルデアラウ。

閑話休題、きな樹ノ栽培ニ就テハ既ニ朝比奈博士ノ文デ明カデアルヨウニ、臺灣デモマヅ此地ガ搖籃ノ地デアルヤシイ。東京帝大演習林デモ以前ハ相當力ヲ入レテ經營シタラシク、溪頭マデ登ツテクル途中ニモきなノ林ガアリ、所々ニ自然ニ開花結實シタモノカラ實生ガ出來テキタ。然シコノ邊ニザラニアルきな樹ハ何レモ丸イ大イ葉ヲ持ツテキテ外觀ハ頗ル景氣ガヨイガ有效成分ガ極メテ少イ *Cinchona succirubra* PAV. ト云フ種類デ大シタモノデハナイト云フ。然シコノ演習林ノ一部ニ武田長兵衛商店ノきな栽培地ガアツテ、其處ニハ Java 島カラ仕入レタ優良種 *C. Ledgeriana* MOENS. ノ實生ガ大切ニ撫育サレテキル。コレガ大キクナツテ採集サレル時ガキタラ實ニスバラシイ結果ガ生ズルダラウト思ツテ、ヒソカニソノ成功ヲ祈ツタ。ソノ前途有望ナキ樹ノ生育情況ヲ撮影シテソノ生ミノ親タル朝比奈博士ニオ目ニカケヨウト思ツテ溪頭カラノ下山ノ途ニ再ビ立寄ツテ見タケレドモ、朝カラノ猛烈ナ霧ノタメニ目的ヲ果スコトガ出來ナカツタ。

「地衣ヲ探ネテ」ト云フ題ヲ掲ゲナガラサツバリ地衣類ノコトヲ書カナイガ、此處、溪頭ノ地ハ地衣類ノ少イ土地ダカラヤムヲ得ナイ。ソノ代リ蘚苔類ヲ相當ニ採集シ櫻井久一博士ニ提供シテアルカラキツト面白イ結果ガ出ルコトト思フ。ソレカラやつこさうノ事ニ就イテ少シ書カシテ頂キタイ。ソレハ溪頭ニハ珍種たいわんやつこさう (*Mitrastemon Kawa-Sasaki* HAYATA) ガ生ズルト云フコトデアル。ソレニハ素人ノ筆者ガ駄辯ヲ弄スルヨリモ、溪頭保護所備付ノ紀念帖ニアル佐々木舜一氏ノ手記ヲ借りタ方ガ遙カニ有效デアル（紀念帖ヨリ勝手ニ拔書シタコトヲ諸氏ニ謹ンデオ詫ビ致シマス）。ソレニハ次ノヨウニ書イテアツタ。

臺灣奴草發見ノ由來

本植物ハ明治四十四年一月一日予ガ總督府阿卑線橫斷探檢隊野呂技師、川上技師一行ニ參



第7圖 たいわんやつこさう（自然大）（早田文藏博士原圖ヨリ模寫）

加シテ阿緬廳霧頭山六千尺ノ地ニ初メテ之ヲ發見シ、次デ翌二日川上技師北陸寮溪源頭附近ニ於テ發見シタリ。當時本植物ハ本邦ニ於テ未ダ嘗テ見ザル珍物ニ屬シ之ト相前後シテ土佐ノ人山本一氏幡多郡ニ於テ類似ノ植物ヲ發見シ、折カラ旅行中ノ草野俊助博士ニ依託シテ牧野富太郎博士ノ研究ニ委シ、同博士ハ南洋方面ニ所産スルらふれしお科近似ノ植物ナルモ形態相違シ僧帽狀ヲナスニヨリ新ニ奴草科ノ一科ヲ創設シ、之ヲ東京植物學雜誌ニ發表シタリ。早田文藏博士ハ予等ノ植物ヲ見テ土佐産ノ奴草トハ形態著シク大ナルモノアルヲ以テ新種ト認定シ、たいわんやつこさうナル新名ヲ下シ世ニ發表セリ。¹⁾ 爾來本島ニ別產地ヲ知ル由ナカリシガ、大正三年三月早田文藏博士ハ阿里山奮起湖ノ潤葉樹林中ニ之ヲ採集シタリシガ、大正十二年四月 今上陛下本島ニ御渡臺ノ砌、本演習林主任沼田大學氏ノ好意ニヨリ當地所産ノ品ヲ台覽ニ供シ奉ラントシテ臺北ニ送致セルニヨリ初メテ本植物ノ本林内ニ産スルヲ知ルニ至レリ。本日九大教授金平博士ニ隨從シテ本植物ヲ見テ感慨最切ナリ。昭和八年十二月九日 佐々木舜一記。

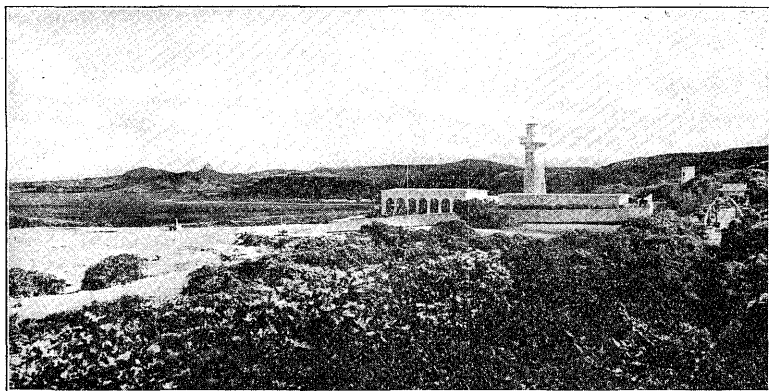
たいわんやつこさうガ世ニ出タ經緯ハ以上ノヨウナモノデアルガ、コノ奴草ヲ追ヒ廻シテキル人ニ廣島高校教授ノ渡邊清彦氏ガアル。即チコノ紀念帖ノ後ノ方ニ「たいわんやつこさう視察ニ當所ニ御厄介ニナル。余みとらすてもんノ生態研究ノ爲、北限阿波國海部郡鞆奥村ヨリ以南自生地ヲ視察スル事十九回、今當所ニ第二十回ノやつこさう旅行ヲ行フ。時ニ昭和九年十二月二十八日 渡邊清彦」トアリ、更ニ少シ先キニ「昭和十年二月二十六日 再度奴草ヲ尋ネテ 藝州廣島住 渡邊清彦」トアツタ。やつこさう開花ノ時期ヲネラツテスーツ廣島カラ渡臺サレ、材料ヲ得ラレルトスグサツト廣島ニ引揚ゲラレル渡邊教授ノ活躍振ガ今更ナガラウラヤマシクナツタ。ナホ臺灣ニハコノたいわんやつこさうノ他ニひしがたやつこさう (*M. Kanehirai* YAMAMOTO) ト云フノガ蓮華池附近ニ知ラレテキルサウデアル²⁾。

溪頭ヲ去ルニアタリ一言述ベテ置カネバナラヌノハ御神木ノコトデアル。臺灣デ御神木ト云ヘバ、ア、阿里山ノアレカ、ト誰モ阿里山ノ御神木ヲ頭ニ浮ベルガ、溪頭ノ演習林ニモ阿里山ノソレニ大シテ劣ラヌ雄大ナ御神木ガアル。樹種ハベにひ (*Chamaecyparis formosensis* MATSUM.) デ、直徑 14 尺、周圍 44 尺、樹高 126 尺、枝下 45 尺、推定樹齡 2,000 年、海拔 4,500 尺デアル。阿里山ノ御神木ガ周圍 19.4 m デ本邦巨樹番附デ第五位デアルカラ、溪頭ノ御神木モ第十位トマデハ下ルマイ。

一月十八日ノ早朝溪頭ヲ出發シテ、臺灣名物ノ臺車ヲ利用シテ約 4 時間ノ後ニ林内驛ニ着イタ。ソレカラ臺南・高雄ヲ經テ南ノ空ノ護リ、屏東飛行聯隊デ有名ナ屏東ニツイタノハ夜ノ十一時デアツタ。翌十九日ハ又早朝起床シテ二番列車デ潮州驛マデ行キ、帝國ノ最南端鷺鑾鼻燈臺マデ約 90 軒ヲ自動車ヲ走ラシタ。燈臺ハ寫眞ノ様ニ頗ル「スマート」ナモノデ名

¹⁾ *Mitrastemon Kawa-Sasakii* HAYATA in Bot. Mag. Tokyo XXVI, p. 112 (1912); in ENGL. Bot. Jahrb. LI, p. 165, Taf. I (1913); Icon. Plant. Formosa. III, p. 156 (1913). YAMAMOTO, Suppl. Icon. Plant. Formosa. II, p. 10, fig. 6 (1926).

²⁾ *Mitrastemon Kanehirai* YAMAMOTO in Bot. Mag. Tokyo XXXIX, p. 142, fig. 1-15 (1925); Suppl. Icon. Plant. Formosa, II, p. 10, fig. 7-8 (1926).



第8圖 鷺鑾鼻燈臺附近ノ風景（或ル繪葉書ニヨル）

勝地（臺灣八景ノ首位ニ當選）トシテ見物人が多く、陸續キノ地デアルノデ、水ノ不便ヲ除ケバ先ヅ惠マレタモノト云ハナケレバナラナイ。燈臺ノ見物ハ一通リデスマセ、何カ紀念ニナル地衣ハナイカト附近ヲ搜シタガ、カラカラノ隆起珊瑚ノ地帯ナノデ大シタ獲物モナク、待チクタビレタ運轉手ハマダカマダカト云ハヌバカリナノデサツサト引揚ゲルコトニシタ。サテコノ鷺鑾鼻燈臺コソハ我が帝國ノ最南端デアルト稱シテキルガ正確ニ云ヘバコノ燈臺ノ南方約16 軒ノ地點ニ七星岩ト云フ岩礁ガアツテ天氣ノヨイ日ハ肉眼デモ見エルト云フ。處ガヨク調べテ見ルト我が帝國ノ最南端ハ實ハ東經 136,5 度北緯 20,25 度ニ位スル小笠原沖ノ鳥島ノ南端デ、七星岩ノ南端ハ北緯 21.45 度ダカラ議論ノ餘地ガナイ。

コノ鷺鑾鼻岬一帯ハ隆起珊瑚デ出来テキルガ、此處ノ原生林ハ種々ノ貴重ナ資料ヲ提供スルモノトシテ天然紀念物トシテ指定サレテキル。コノ原生林ニツイテハ既ニ正宗嚴敬氏¹⁾ノ解説ガアルガ、ソレヲ要約スルト次ノヨウニナル。マツ海ニ近イ海水ノ影響ヲ強く受ケル部分ニハ一般ニ小形ノ灌木デ厚ボツタイ葉ヲモツ鹽性植物ガ多くみづがんび (*Pemphis acidula* FORST.)・はまだいげき (*Euphorbia Atoto* FORST.)・はまなため (*Canavalia lineata* DC.) 等ガアリ、コレヨリ陸ニ向ツテ進ムト原生林ノ主要部ヲナス種々ノ喬木が見ラレル。此處ニハ約 150 種ノ植物ガアルトノコトデアルガ、ごはんのあし (*Barringtonia asiatica*)・はてるまぎり (*Guetarda speciosa* L.) ももたま (*Terminalia Catappa* L.)・けがき (*Diospyros discolor*)・もんばのき (*Tournefortia argentea* L.)・さきしまはまぼう (*Thespesia populnea* SOL.)・りんとう (*Pandanus tectarius* SOL.)・さきしますはらのき (*Heritiera littoralis* ALT.)・はすのはぎり (*Hernandia ovigera* L.) 等ガアリ、林内ヲ貫通スル自動車道路カラデモ立札ニヨツテ其等ノ植物ヲ知ルコトガ出来ル様ニナツテキル。

又コノ燈臺道カラ少シ奥ニハイツタ所ニ林業試験場ノ熱帯植物園ガアツテ多數ノ樹木ガ植栽サレテアルサウダガ、残念ナガラ時間ノ都合上見學ヲ割愛シタ。（以下次號）

1) 正宗嚴敬：鷺鑾鼻原生林ノ植物（史蹟名勝天然紀念物 第九集第三號 41-45頁）